

国際共創学部

● 国際共創学科

「新しくスタートする国際共創学部でともに学び、成長しましょう!!」

皆さん、国際共創学部への入学おめでとうございます。2024年4月に開設した国際共創学部にとって、皆さんは第一期生にあたります。新しくスタートする国際共創学部を皆さんとともに創り上げていきたいと思っています。素晴らしい学部になるよう、教員・職員も一生懸命取り組みますので、皆さんも一緒に頑張ってください。

さて、たくさんの大学・学部がある中で、皆さんは大阪経済大学国際共創学部を選択し、入学しました。この国際共創学部で皆さんは何を学び、どのように成長していくビジョンを描いているのでしょうか。

「国際共創」という言葉は、一般にはなかなかなじみのない言葉かもしれません。国際共創学部では教育理念を「グローバルな視点で社会や経済を見据え、多文化への理解に基づき、人々と未来を共に作り出していくこと」とし、これを「国際共創」の定義としています。この「国際共創」を理解し、実現できる人材を育成することが国際共創学部の目的となります。

近年、グローバル化という言葉が皆さんもよく聞くようになったと思います。さまざまなモノやヒトが国境を越えて移動するだけでなく、情報技術の進展によって、いまや情報は瞬時に世界中を移動する時代になりました。さまざまな背景・価値観を持つ人びとが交わり、時には同じ地域で生活していく多文化共生の時代がすでに訪れています。また、グローバル化は、社会や経済の課題を国内だけでは解決できない課題へと変化させました。SDGsという言葉が皆さんもよく知っていると思いますが、現代の社会・経済課題は、世界中の人々が協力し取り組まなければ解決できない課題へと変化しています。ウクライナや中東での戦争が世界や日本の経済に大きな影響を与え、身近な生活にも影響を及ぼしていることを皆さんも実感していると思います。

このような現代の中で求められる能力は、「様々な人々の背景や価値観を理解し、多面的な見方・考え方で課題に取り組み、人々と協力しながら新しい価値を生み出していく能力」です。複雑化・多様化する現代の社会・経済課題は、これまで通りの考え方や見方だけでは解決することはできません。また、個人や少数だけで解決することも困難な時代になっています。多様な人々が多様な考え方・見方を持ち寄り、共に行動し、新しい価値を生み出すことによって、ようやく課題を解決することができるのです。

この「様々な人々の背景や価値観を理解し、多面的な見方・考え方で課題に取り組み、人々と協力しながら新しい価値を生み出していく能力」を育てていくのが国際共創学部の学びです。国際共創学部では語学力だけでなく、社会・文化や経済・経営の知識を幅広く学び、そして「グローバル文化領域」「国際社会領域」「政策デザイン領域」「社会創造領域」の4つの領域から専門的な知識を学んでいきます。また、1年次のハワイ大学での語学研修（Development of Multicultural Awareness）では、語学力を向上させるだけでなく、ホームステイを通じて日本とは異なる社会を体験します。さらに、2年次の海外・国内実践プログラム、3年次の海外プロ

プロジェクト型実践プログラムを通じて、現場を自分の目で見て、考え、解決案を検討する実践力を養っていきます。2年次後半からは、ゼミ活動を通じて自身の興味・関心に基づく研究を行っていくことができます。

国際共創学部で考える課題に「一つの正解」はありません。「そもそも正解がない」、「人により見方が異なり多くの正解がある」課題にいかに取り組み、持続的価値を創出するかが問われます。そこで大切なのは知識と主体性、熱意と行動です。自らにとって快適なコンフォートゾーンからあえて飛び出る勇気を持ち、さまざまなことにチャレンジしてください。そうすれば、「洞察力」「共感力」「構想力」「実践力」を持った、国際共創に貢献できる人材へと成長できます。さぁスタートです。一緒に頑張りましょう!!

教育研究上の理念・目的

理念：グローバルな視点で社会や経済を見据え、多文化への理解にもとづき、人々と未来を共に創り出していくこと

目的：「社会・文化」「経済・経営」分野を基盤とし、本質的な課題を発見し（洞察力）、多様な人々の考えを理解し、信頼関係の構築に取り組みながら（共感力）、解決に向けて立案し（構想力）、主体的に行動できる（実践力）「グローバル人材」を養成すること

養成する人材像

国内外の地域が抱える社会・経済課題に対応するため、多様な価値観や文化への関心を持ち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学の定める全学的な学位授与の方針に基づき、国際共創学部が示す以下の知識や能力を備えた者に学士（国際共創）を授与します。

（国際共創学部DP1）【洞察力・構想力】

- ① グローバルな視点を持って、本質的な課題について、発見し、考察できる（洞察力）。
- ② 関心のある「社会・文化」「経済・経営」の課題に対して、解決に向けて立案できる（構想力）。

（国際共創学部DP2）【知識・技能】

- ③ 国内外の「社会・文化」「経済・経営」に関する知識を身につけている（知識）。
- ④ 国内外の情報や知見を収集・調査・分析することができる（技能）。

（国際共創学部DP3）【共感力・実践力】

- ⑤ 語学を活用し、多様な人々の考えを理解し、コミュニケーションをとることができる（共感力）。
- ⑥ 多様な文化的背景を持つ人々とつながり、共創に向けて行動できる（実践力）。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際共創学部の学位授与の方針に掲げた知識・能力を身につけるため、全学の教育課程編成・実施の方針に基づき、学位プログラムを以下の通り編成します。

（国際共創学部CP1）【対応科目：全学共通科目】

対応するDP：①洞察力、②構想力、③知識、④技能

全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために、語学科目・広域科目を編成する。

- ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身につける。
- ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための知識と考え方を身につける。

(国際共創学部CP2)【対応科目：基盤科目・専門科目・発展科目】

対応するDP：①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力

学科専攻科目の基盤科目、専門科目及び発展科目では、専門的な知識・技能、実践的な語学力、国際感覚と多様な価値観に基づく柔軟な洞察力・構想力、多様な人々と共創できる共感力・実践力を身につける科目を編成する。

(基盤科目) 対応するDP：①洞察力、②構想力、③知識、④技能

・「社会・文化」「経済・経営」の基礎的な知識及び技能（語学力・思考力・情報活用力）について学び、グローバルな視点で社会・経済課題を洞察・構想するために必要となる基礎知識と基礎能力を身につける。

(専門科目) 対応するDP：①洞察力、②構想力、③知識、④技能

・専門科目は、専門知識の基礎を形成する基幹科目と、専門性を高める4つの領域（グローバル文化領域、国際社会領域、政策デザイン領域、社会創造領域）から構成される領域科目に区分し、体系的・段階的な学修を通じて、専門的知識・専門的技能と洞察力・構想力を身につける。

(発展科目) 対応するDP：①洞察力、②構想力、⑤共感力、⑥実践力

・発展科目は、共創科目と英語アドバンスト科目に区分し、共創科目では現地での体験等を通じて洞察力、構想力、共感力、実践力を身につけ、英語アドバンスト科目では、洞察力、構想力、共感力、実践力の基盤となるより高い英語力を身につける。

(国際共創学部CP3)【対応科目：演習科目】

対応するDP：①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力

国際共創学部の学びの基盤となる演習（ゼミナール）科目を各年次において必修科目として編成する。

- ・1年次に専任教員が担当する「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」を置き、大学で主体的に学ぶうえでの意識と技能（思考力・情報活用力）を身につける。
- ・演習科目では、各学問領域からのアプローチ（知識）により課題を発見し、継続的な調査・研究をすることで、専門的な課題解決に必要な力（洞察力、構想力、共感力、実践力）を身につける。

これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法（「定期試験」「レポート」「発表」等）を用いて評価する。

また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価（GPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等）をすることにより、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

国際共創学部は、教育目標に定める多彩な人材を育成するため、次のような意欲と能力を備えた者を受け入れます。

(国際共創学部AP1)

- ・入学後の学修に必要な基礎的な知識を修めている者。

(国際共創学部AP2)

- ・ 経済や社会の課題に関心を持ち、論理的に考え、表現するための基礎的な力をもつ者。

(国際共創学部AP3)

- ・ 他者と積極的にコミュニケーションを図り、多様な文化的背景を持つ人々とつながり、切磋琢磨することに意欲をもつ者。

上記のようなものを受け入れるために、以下の入学試験において公平かつ適正に選抜します。

【総合型選抜】【学校推薦型選抜】【一般選抜】【国際留学生入試】

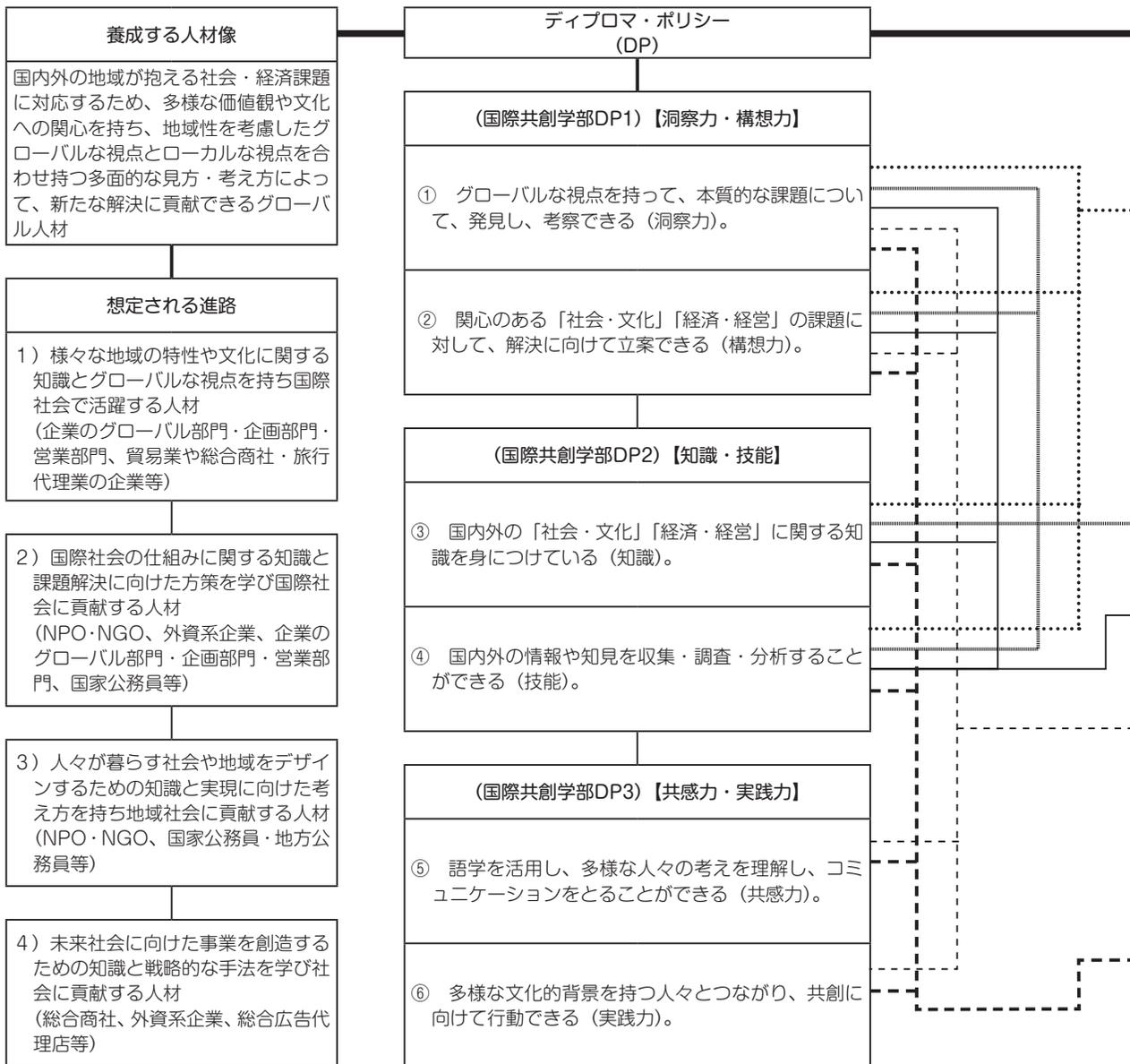
(各選抜方式の詳細は「全学アドミッション・ポリシー」を参照してください。)

国際共創学部カリキュラムマップ	ディプロマ・ポリシー(DP)						
	(国際共創学部 DP1) 【洞察力・構想力】		(国際共創学部 DP2) 【知識・技能】		(国際共創学部 DP3) 【共感力・実践力】		
カリキュラム・ポリシー(CP)	区分	①洞察力	②構想力	③知識	④技能	⑤共感力	⑥実践力
(国際共創学部 CP 1) 【対応科目: 全学共通科目】 対応する DP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能 全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために、語学科目・広域科目を編成する。 ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身につける。 ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための知識と考え方を身につける。	全学共通科目	○	○	○	○		
(国際共創学部 CP 2) 【対応科目: 基盤科目・専門科目・発展科目】 対応する DP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力 学科専攻科目の基盤科目、専門科目及び発展科目では、専門的な知識・技能、実践的な語学力、国際感覚と多様な価値観に基づく柔軟な洞察力・構想力、多様な人々と共創できる共感力・実践力を身につける科目を編成する。	基盤科目	○	○	○	○		
	専門科目	○	○	○	○		
	発展科目	○	○			○	○
(国際共創学部 CP 3) 【対応科目: 演習科目】 対応する DP: ①洞察力、②構想力、③知識、④技能、⑤共感力、⑥実践力 国際共創学部の学びの基盤となる演習(ゼミナール)科目を各年次において必修科目として編成する。 ・1年次に専任教員が担当する「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」を置き、大学で主体的に学ぶうえでの意識と技能(思考力・情報活用力)を身につける。 ・演習科目では、各学問領域からのアプローチ(知識)により課題を発見し、継続的な調査・研究をすることで、専門的な課題解決に必要な力(洞察力、構想力、共感力、実践力)を身につける。	演習科目	○	○	○	○	○	○

これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法(「定期試験」「レポート」「発表」等)を用いて評価する。
また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価(GPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等)をすることにより、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。

国際共創学部カリキュラム概念図（教育研究上の理念・目的、養成する人材像ならびに）

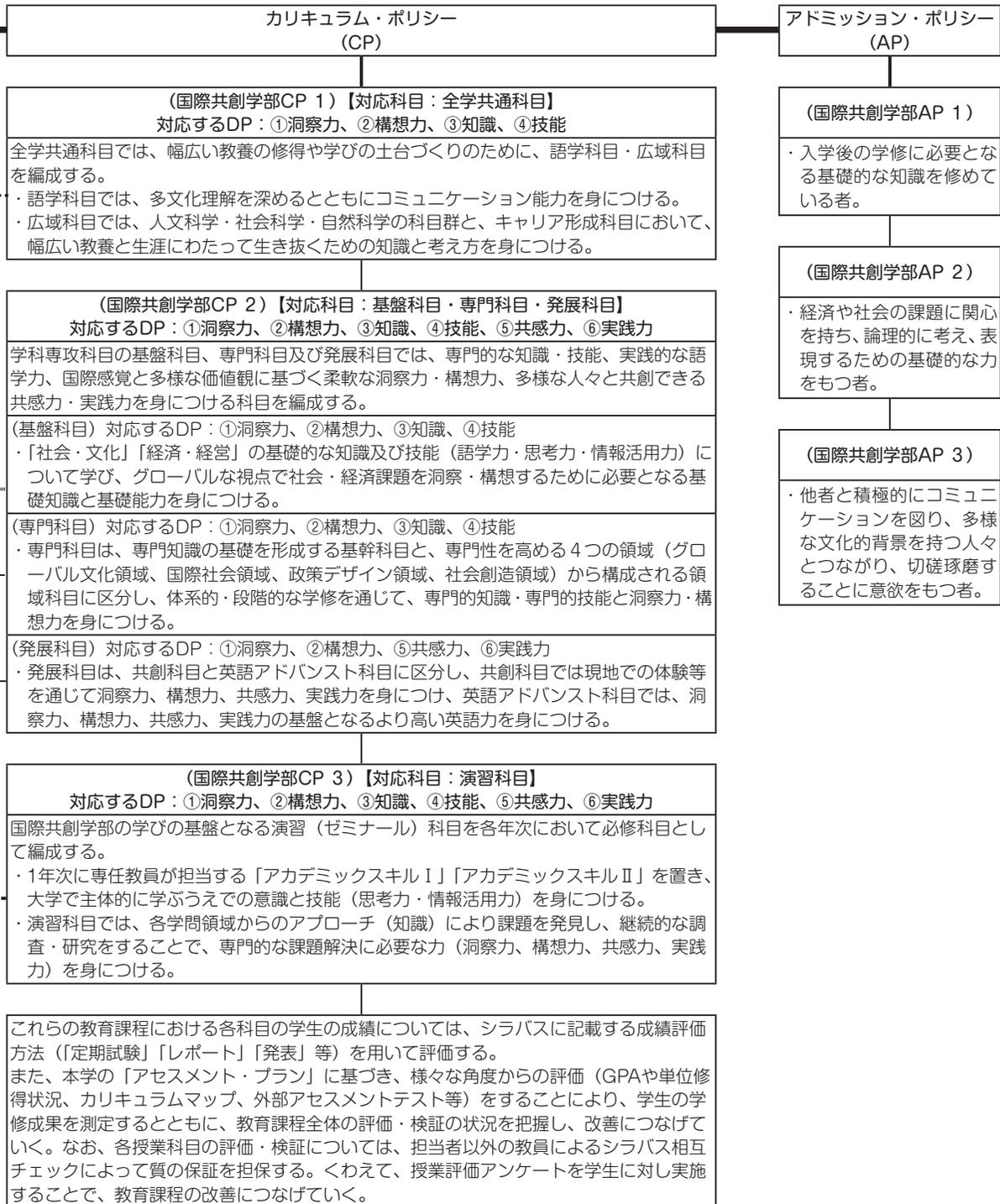
育研究上の 理念・目的	理念	グローバルな視点で社会や経済を見据え、多文化への理解にもとづき、人々と未来を共に
	目的	「社会・文化」「経済・経営」分野を基盤とし、本質的な課題を発見し（洞察力）、多様な「グローバル人材」を養成すること



3ポリシーの関係図

創り出していくこと

人々の考えを理解し、信頼関係の構築に取り組みながら（共感力）、解決に向けて立案し（構想力）、主体的に行動できる（実践力）

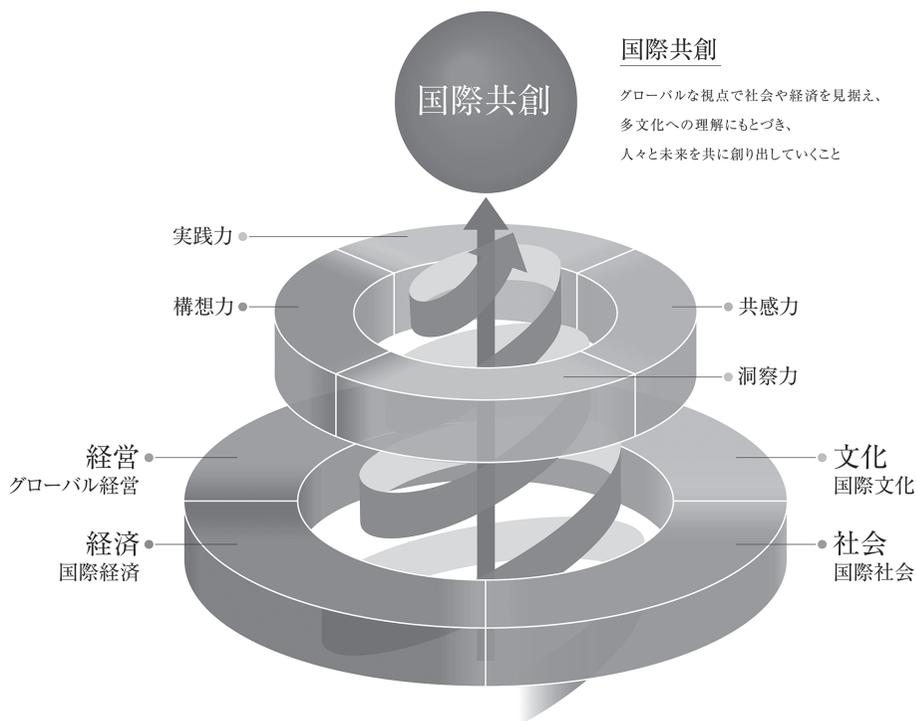


カリキュラムの概要

国際共創学部のカリキュラムは、基盤科目から専門科目、そして発展科目へと段階を通じて学びを進めていけるよう設計しています。下図で示すように、「国際共創」の基盤には国際的な「社会・文化」「経済・経営」の知識が不可欠であり、カリキュラムもこれらに関連する「知識」「技能」が身につくように編成されています。これらの「知識」「技能」に加えて、主に1年次に履修する基盤科目では「語学力」「思考力」「情報活用力」を身につけていきます。また、専門科目では、「洞察力」「構想力」を身につけるために、後に紹介する4つの領域に基づいた科目が配置されており、学生自身の興味関心に応じて自由に科目を選択できるようになっています。さらに、発展科目では、「洞察力」「構想力」だけでなく「共感力」や「実践力」を身につけるために、実習系の科目に加え、英語力をより向上させることができるような科目を配置しています。少数数のいわゆるゼミナール形式で行われる演習科目では、大学での学び方を学ぶアカデミックスキルから始まり、2年次からの専門科目等の学びと専門演習を通じて学生自身の専門性を高めていながら、4年次で卒業論文の執筆に取り組むことにより、ここで示された能力を包括的に身につけることができます。

ここに書かれている内容をよく読み理解したうえでこれからの履修を考えていくようにしてください。

国際共創学部概念図



卒業要件単位数

国際共創学部卒業に必要な単位数は全部で124単位となっており、大きくは【全学共通科目：30単位】【学科専攻科目：94単位】に分かれます。詳細は以下の表に示す通りとなっています。

				卒業に必要な単位数	備考	
全学共通科目 30単位	外国語科目	必修外国語科目	英語	4単位	10単位 学部国際留学生は以下「※」を参照すること	
			英語以外	4単位		
		選択外国語科目	2単位			
	広域科目		①思想と文化	2単位以上		20単位
			②歴史と社会	2単位以上		
			③健康とスポーツ	2単位以上		
			④自然と生活	2単位以上		
⑤データサイエンスと数理			2単位以上			
⑥キャリア形成科目						
⑦共通特殊講義		特定の科目のみ履修可				
学科専攻科目 94単位	(A) 基盤科目	(A-1) 入門科目	必修科目①	8単位	26単位	
			選択必修科目	4単位		
		(A-2) 基礎科目	必修科目②	6単位		
			必修科目	4単位		
	(B) 専門科目	(B-1) 基幹科目	選択必修科目①	2単位	42単位	
			選択必修科目②	2単位		
		(B-2) 領域科目	24単位			
	(C) 発展科目	(C-1) 共創科目	4単位	8単位		
		(C-2) 英語アドバンスト科目	4単位			
	(D) 演習科目			14単位	すべて必修	
(E) 学科専攻科目の各区分の余剰単位			4単位	オープン科目を含む		
合計				124単位		

※学部国際留学生の必修外国語科目は日本語とし、「日本語 I a～IV b」の8単位を修得しなければなりません。

履修方法

①全学共通科目

前項で示したように、全学共通科目では卒業までに30単位の修得が必要になります。内訳は以下の通りとなりますが、ここでは、全学共通科目の履修に当たっての注意点を紹介します（※他の学部と履修の仕方も若干異なるので、分からない点は教務部などで確認するようにしてください）。

				卒業に必要な単位数	備考	
全学共通科目 30単位	外国語科目	必修外国語科目	英語	4単位	10単位 学部国際留学生は上記「※」を参照すること	
			英語以外	4単位		
		選択外国語科目	2単位			
	広域科目		①思想と文化	2単位以上		20単位
			②歴史と社会	2単位以上		
			③健康とスポーツ	2単位以上		
			④自然と生活	2単位以上		
⑤データサイエンスと数理			2単位以上			
⑥キャリア形成科目						
⑦共通特殊講義		特定の科目のみ履修可				

i) 外国語科目

必修外国語科目では、学部国際留学生を除き全員が2言語を4単位ずつ学びます。英語は必修とし、もう1言語をそれぞれが入学前に選択した言語にて履修します。なお、英語については、

入学前に受験したプレイスメントテストの結果に応じてレベル別のクラスにて履修します。学部国際留学生は日本語を8単位履修しなければなりません。

選択外国語科目では、2単位が卒業に必要な単位数となります。英語に関する科目だけでなく第2言語で選択した言語やそれ以外の言語など、自身の興味関心に応じて履修することが可能です。また「語学研修」という短期留学を行う科目も配置していますので、より語学力を向上させたい場合には履修を検討してみてください。「語学研修」に関することや留学に関することは、D館2階の国際部で相談してください。

ii) 広域科目

広域科目は7つの分野に分かれており、そのうち①思想と文化、②歴史と社会、③健康とスポーツ、④自然と生活、⑤データサイエンスと数理の5分野からそれぞれ2単位ずつ修得しなければなりません。これらの条件をクリアしていれば、それ以外は①～⑦のいずれの分野からでも自由に履修することが可能です。

なお、⑥キャリア形成科目では、就職に関することだけでなく、これからの生き方（キャリア）を考えるうえで非常に重要となる科目群です。低年次から履修することができますので、積極的に履修するようにしてください。また⑦共通特殊講義では、山積している社会課題について、課題解決に向けた活動に取り組む人々を招いて、それらの活動内容に触れながら学生たちと共に議論を進めていく授業です。履修できる科目は限られていますが、これらの科目についても積極的に履修するようにしてください。

広域科目では、上記の条件を踏まえて、合計20単位の修得が必要になります。

その他、全学共通科目についての詳細は、履修のてびき39頁に記載していますので確認してください。

② 学科専攻科目

国際共創学部の学科専攻科目は、知識・技能を深め、本学部の学生に修得させる能力である「洞察力・構想力・共感力・実践力」を段階的に養うことを目的としています。これらの能力を段階的に養うために、基盤科目（1・2年次）、専門科目（2・3年次）、発展科目（2・3年次）、演習科目（1・2・3・4年次）に区分して編成しており、卒業までに94単位を修得しなければなりません。これらの区分における各科目の配当年次については、巻末の別表ならびに、別冊の年次配当表で確認するようにしてください。

				卒業に必要な単位数	備考
学科 専攻 科目 94 単位	(A) 基盤科目	(A-1) 入門科目	必修科目①	8単位	26単位
			選択必修科目	4単位	
			必修科目②	6単位	
		(A-2) 基礎科目	必修科目	4単位	
			選択必修科目①	2単位	
			選択必修科目②	2単位	
	(B) 専門科目	(B-1) 基幹科目	選択必修科目①	16単位	42単位
			選択必修科目②	2単位	
		(B-2) 領域科目	24単位		
	(C) 発展科目	(C-1) 共創科目	4単位	8単位	
(C-2) 英語アドバンスト科目		4単位			
(D) 演習科目			14単位	すべて必修	
(E) 学科専攻科目の各区分の余剰単位			4単位	オープン科目を含む	

(A) 基盤科目

基盤科目は、本学部の専門的な学びの基盤を養成する科目であり、専門性を養ううえで不可欠な社会学、経済学の基礎知識、語学力の基礎、思考・分析・調査の技能（思考力、情報活用力）、国際的な社会・文化、経済・経営の基礎知識を修得するために必要な科目を中心に配置されています。また、より体系的な学修を行うため、基盤科目をさらに入門科目と基礎科目に区分しており、主に1年次を対象として開講しています。

(A-1) 入門科目

入門科目では、本学部の学びの根幹となる「国際共創入門」「経済学概論Ⅰ」「経済学概論Ⅱ」「社会学概論」「Development of Multicultural Awareness」「Basic English A」「Basic English B」を必修科目として配置しています。ここでは、社会学、経済学の基礎を修得する科目とともに、本学部の学びの本質を理解する科目を入門科目として、必修科目にしています。また、「Basic English A」「Basic English B」を受講し、そのうえで「Development of Multicultural Awareness」（1年春季休業期間に実施するハワイ大学マノア校への短期留学）を受講することで、語学力と多文化理解の基盤を培います。選択必修科目として、「情報化社会と技術」「データ分析と活用」「社会調査法入門」「ロジカルシンキング」のうち2科目4単位以上の修得が必要になります。これらを通じて専門的な学びを進めていくうえで必要な、情報や知見を論理的に捉え考える力（思考力）と収集・調査・分析する力（情報活用力）を養います。

区 分	科目名	必要単位数	備 考
必修科目 ①	国際共創入門	8単位	
	経済学概論Ⅰ		
	経済学概論Ⅱ		
	社会学概論		
選択 必修科目	情報化社会と技術	4単位 以上	いずれか2科目以上の修得が必要
	データ分析と活用		
	社会調査法入門		
	ロジカルシンキング		
必修科目 ②	Development of Multicultural Awareness	6単位	ハワイ大学への短期留学
	Basic English A		全学共通科目「英語Ⅰ・Ⅱ」と同じ レベル分け
	Basic English B		

(A-2) 基礎科目

基礎科目では、入門科目と並行して、より国際的な社会・文化、経済・経営の知識を学び、専門科目での学びの基盤を養います。将来的な専門的学びを念頭に置いたうえで履修できるよう、必修科目として「国際経済論」「国際社会論」を配置し、選択必修科目として「国際文化論」「グローバルビジネス基礎」「経済情報分析」のうち1科目2単位以上の修得を必要としています。また、英語での講義である「Global Issues」「Japanese Culture」についても選択必修科目として配置し1科目2単位以上の修得を必要としています。これらの科目において、語学力の向上と他言語で物事を捉える力を学び、共感力の基礎を養います。

区分	科目名	必要単位数	備考
必修科目	国際経済論	4単位	
	国際社会論		
選択 必修科目 ①	国際文化論	2単位以上	いずれか1科目以上の修得が必要
	グローバルビジネス基礎		
	経済情報分析		
選択 必修科目 ②	Global Issues	2単位以上	いずれか1科目以上の修得が必要
	Japanese Culture		

(B) 専門科目

専門科目は、本学部の専門的な学びの共通科目として主に2年次を対象とした領域を問わず理解しておくべき科目である基幹科目と、主として3年次を対象とした学生が自身の関心と将来のキャリアを念頭に置きながら領域から選択し、より高度な知識と技能を修得する領域科目に区分して配置しています。ここで示す領域とは、「グローバル文化領域」「国際社会領域」「政策デザイン領域」「社会創造領域」の4つの領域を指しています。

(B-1) 基幹科目

基幹科目は、学生が主体的に学修し、専門性を高めていくうえで、領域を問わず広く理解しておくべき土台となる科目を配置しています。これらは、4領域を横断する科目、および、4領域の基礎となる科目から構成されています。これらの科目の履修を通じて、主に洞察力・構想力の基礎を養います。また、学生のみなさんが主体的に選択し、自身の専門性を高める基盤を形成できるように、選択必修科目として設定しています。

なお、下表の通り、選択必修科目①からは8科目16単位以上の修得が必要です。また、選択必修科目②からは1科目2単位以上の修得が必要となります。

区分	科目名	必要単位数	備考
選択 必修科目①	文化人類学	16単位 以上	いずれか8科目以上の修得が必要 ※1 オムニバス形式 ※2 Web授業
	宗教と社会		
	社会思想史		
	社会心理学		
	社会システム論		
	国際社会と人権		
	ジェンダーと法		
	政治学		
	多文化コミュニケーション		
	国際社会と日本文化 ※1		
	世界経済史		
	アジア経済論		
	日本経済論		
	グローバル企業論 ※2		
アカウンティング			
NGO・NPO論			
選択 必修科目②	認知科学	2単位以上	いずれか1科目以上の修得が必要
	クリエイティブシンキング		
	リーダーシップ論		
	キャリア開発論		

(B-2) 領域科目

領域科目は、学生のみなさんが自身の目指す将来像に合わせて各領域から科目を選択し、専門性の高い科目を履修することによって、主として洞察力・構想力を養うことを目指します。領域科目では、4領域合算して12科目24単位以上の修得が必要となります。領域科目で配置する4つの領域の詳細は以下のとおりです。

(グローバル文化領域)

「様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を深める領域」

多様な社会・文化や価値観の存在を認め、多文化に対する理解とその実際を学ぶため、多文化社会や地域文化、地域社会に関する学修を行い、多文化共生社会の構築に貢献する能力を身につけます。

グローバル文化領域では、「アジア文化論」「生活文化論」「地域研究A」「地域研究B」「地域研究C」などの科目を通じて様々な地域の特性や文化、地域経済について学び、「多文化共生論」「平和と紛争」などの科目を通じてグローバルな視点を学んでいきます。様々な地域の特性や文化を学び、グローバルな視点を養うことによって、専門的な知識や技能を修得し、洞察力・構想力を身につけます。

区分	科目名	必要単位数	備考
グローバル文化領域	多文化共生論	4 領域合算して 24 単位以上	
	共生社会論		
	平和と紛争		
	アジア文化論		
	文化政策		
	生活文化論		
	現代文化論		
	地域研究 A		アメリカ
	地域研究 B		アジア
	地域研究 C		アフリカ

(国際社会領域)

「国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学ぶ領域」

グローバル化時代の国際社会の現状・課題に着目し、国際社会の姿や福祉、開発、保健、教育等の国際社会に関する学修を行い、未来に挑戦できる能力を身につけます。

国際社会領域では、「国際関係論」「国際社会と外交」「国際開発論」などの科目を通じ、国際社会と国際経済の仕組みについて学び、「国際保健論」「国際社会と教育」「国際協力論」「環境と社会」などを通じ、課題解決に向けた方策について学んでいきます。国際社会・国際経済の仕組みに関する知識を得て、課題解決に向けた方策を学ぶことで、専門的な知識や技能を修得し、洞察力・構想力を身につけます。

区分	科目名	必要単位数	備考
国際社会領域	福祉社会論	4 領域合算して 24 単位以上	
	メディアと社会		
	国際関係論		
	国際社会と外交		
	国際開発論		
	国際保健論		夏期集中講義
	国際社会と教育		
	国際協力論		
	環境と社会		

(政策デザイン領域)

「人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実現に向けた考え方を深める領域」

日本や世界の将来に関わる「政策」の本質に着目し、環境と地域づくりがどのように関わるのか、都市と地方の成り立ちに関わる問題やローカルガバナンス、パブリックマネジメント等の政策に関する学修を行い、多様な視点から解決策を主体的に構想することができる能力を身につけます。

政策デザイン領域では、「まちづくり論」「地方創生論」「中小企業政策」などを通じて社会や経済、地域が直面する課題を理解し、「環境デザイン論」「ローカルガバナンス論」「パブリックマネジメント」などを通じて、課題を解決し社会・経済をデザインしていくための手法などを学ぶことによって、専門的な知識や技能を修得し、洞察力・構想力を身につけます。

区分	科目名	必要単位数	備考
政策デザイン領域	公共政策	4 領域合算して 24 単位以上	
	環境政策		
	まちづくり論		
	都市デザイン論		
	環境デザイン論		
	アートマネジメント		
	地方創生論		
	中小企業政策		
	ローカルガバナンス論		
パブリックマネジメント			

(社会創造領域)

「未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学ぶ領域」

グローバル化時代の国際社会が抱えている数々の課題解決のため、ダイバーシティや社会ネットワークの広がりに着目して、実際の地域社会やまちづくりの新たな動きや社会的企業等に関する学修を行い、持続可能な社会と経済の構築に貢献しうる能力を身につけます。

社会創造領域では、「ソーシャルキャピタル論」「地域産業論」「観光産業論」などを通じて地域社会やまちづくりの基礎を、「事業創造論」「社会的企業論」などを通じて持続可能な社会・経済を構築するための知識と実践手法を学ぶことで、専門的な知識や技能を修得し、洞察力・構想力を身につけます。

区分	科目名	必要単位数	備考
社会創造領域	社会ネットワーク論	4 領域合算して 24 単位以上	
	ボランティア論		
	ソーシャルキャピタル論		
	地域イノベーション		夏期集中講義
	地域産業論		
	情報産業論		
	観光産業論		
	ツーリズム論		
	事業創造論		
社会的企業論			

(C) 発展科目

発展科目では、現地で国内外の人々と触れ合い文化や背景を体感するフィールドワークや実務家を迎えたアクティブ・ラーニングを行う共創科目と、発展的な英語を学ぶ英語アドバンスト科目を配置し、「洞察力・構想力・共感力・実践力」の養成と、英語力のさらなる向上を目的としています。

(C-1) 共創科目

共創科目では、2年次から履修できる海外（「グローバル・リサーチA」（アメリカ）「グローバル・リサーチB」（タイ））や国内（「ローカル・リサーチA」（島根）「ローカル・リサーチB」（高知））に実際に赴き、地域の人々との交流や実際に地域の現状を調査する実習形式の科目を配置し、「洞察力・構想力・共感力・実践力」を養います。3年次には、海外においてより実学的な課題解決に向けた手法を学ぶ実習形式の科目「国際共創プログラム」（ベトナム）を配置し、「洞察力・構想力・共感力・実践力」をさらに養います。また、「グローバルビジネス・スタディ」および「ローカルビジネス・スタディ」では、実務家をゲストスピーカーに迎えてグループワークやディスカッションなどの演習形式で授業を行うなど、アクティブ・ラーニングを通じて「洞察力・構想力・共感力・実践力」を養うことを目指します。これらの実習系・演習系科目のうち、2科目4単位以上の修得が必要となります。

※実習先については変更になる場合があります。

※別途実習費が必要となる科目があります。

区分	科目名	必要単位数	備考
共創科目	グローバル・リサーチ A	4 単位以上	夏期集中（アメリカ）
	グローバル・リサーチ B		夏期集中（タイ）
	ローカル・リサーチ A		夏期集中（島根）
	ローカル・リサーチ B		夏期集中（高知）
	国際共創プログラム		夏期集中（ベトナム）
	グローバルビジネス・スタディ		
	ローカルビジネス・スタディ		

(C-2) 英語アドバンスト科目

英語アドバンスト科目では実践的な英語能力を養う科目である「Reading and Writing A」「Listening and Speaking A」「English Communication A」などと、英語で専門領域について講義する科目（「Regional Environment and Sustainability」「Development and Management」など）を配置し、より高い語学力、多文化への理解、他言語で考える力を身につけます。これらの科目のうち2科目4単位以上の修得が必要となります。また、英語の教育職員養成課程において定められている科目もありますので、詳しくは36頁を参考にしながら、教務部教職課程事務室を活用してください。

区分	科目名	必要単位数	備考
英語アドバンスト科目	Reading and Writing A	4 単位以上	
	Reading and Writing B		
	Listening and Speaking A		
	Listening and Speaking B		
	English Communication A		
	English Communication B		
	Advanced English (Discussion)		
	Advanced English (Presentation)		
	Advanced English (Debate)		
	Urban Geography		
	Regional Environment and Sustainability		
	Development and Management		
	Peace and Coexistence		
	英語学概論		
	英語音声学		
	英文法		
	英語文学 A		
英語文学 B			

(D) 演習科目

演習科目では、1年次に「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」を開講し、少人数によるアクティブ・ラーニング形式で、本学部で学ぶうえで基盤となる思考力や情報活用力を培うことを目指します。

2年次の後期から開講する「演習Ⅰ」、3年次からの「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」、4年次からの「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」では、「洞察力・構想力・共感力・実践力」を包括的に身につけます。2年半継続して同じ教員が担当し、専門的な知識の修得や、問題の本質やその背景にある意図を柔軟な思考で見抜く力（洞察力）と自由な発想をもとに、様々な知を結びつけ、課題解決のための道筋を立案する力（構想力）を養います。また、演習内でフィールドワークなどを行うことで、現場での体験に基づき得られた知見を踏まえ、多様な価値観を持つ人々と信頼関係の構築する力（共感力）と、地域社会・企業社会・国際社会と関わる実践的な教育・研究環境のなかで、問題解決に向けて主体的に行動できる力（実践力）を身につけます。

「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」はそれぞれの教員が設定するテーマに基づいて行われますが、共通シラバスを設定していますので、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」で学ぶ内容を定めることによって、どのゼミに所属しても段階的に能力が養われることを担保しています。そして、これらを踏まえううえで、4年次の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は担当教員が学生一人ひとりに寄り添い直接指導を行い、これまでに培った専門的な知識・技能を持って卒業論文の執筆に取り組みます。

演習科目はすべての科目が必修となります。

区分	科目名	必要単位数	備考
演習科目	アカデミックスキルⅠ	14 単位	
	アカデミックスキルⅡ		
	演習Ⅰ		
	演習Ⅱ		
	演習Ⅲ		
	卒業研究Ⅰ		
	卒業研究Ⅱ		

◆演習科目履修の注意事項

- ① 「アカデミックスキルⅠ」および「Ⅱ」の履修は、大学側で指定された時間割で履修しなければなりません。
- ② 「演習Ⅰ」の募集については、演習説明会や演習要項を参考にして、希望する演習に2年次春学期に応募してください。
- ③ 定員を超える場合は選考の上決定されます。
- ④ 演習の所属が決まった学生は、2年次秋学期に「演習Ⅰ」の履修が割り当てられます。
- ⑤ 「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は原則、同一教員が担当します。ただし、事情により、各学期終了時に他のゼミに異動することができます。（卒業研究は異動不可。）この場合、所属ゼミと異動先ゼミの双方の担当者の了解のもと、教務部に「転籍届」を提出しなければなりません。
- ⑥ 全ての科目が必修となりますので、「不可」とならないように取り組みましょう。

●再履修など

必修科目である全学共通科目の外国語科目や、「国際共創入門」「経済学概論Ⅰ」などは、単位を修得するまで再履修しなければなりません。これらの科目を修得できず、再履修になった場合、履修最高単位数に含まずに履修することができます。またこれらの科目は配当年次を超えて再履修することができます。

●履修最高単位数に含まない科目

<全学共通科目>

- ① 必修外国語科目の再履修
- ② 選択外国語科目「語学研修」
- ③ キャリア形成科目「インターンシップ」

<学科専攻科目>

- ① 「グローバル・リサーチA」「グローバル・リサーチB」「ローカル・リサーチA」「ローカル・リサーチB」「国際共創プログラム」
- ② 必修科目の再履修（「国際共創入門」「経済学概論Ⅰ」「経済学概論Ⅱ」「社会学概論」「国際経済論」「国際社会論」「Development of Multicultural Awareness」「Basic English A」「Basic English B」「アカデミックスキルⅠ」「アカデミックスキルⅡ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」）

<その他>

- ① 大学コンソーシアム大阪単位互換科目
- ② 関西外国語大学単位互換科目

●教育職員養成課程について

国際共創学部では、教育職員養成課程において定められている所定の単位を修得すれば、教師になるために必要となる教員免許状を取得することができます。【詳細は51頁】

●履修モデル

国際共創学部では、想定される進路別にどのような科目を履修していくことが望ましいのかを示す4つの履修モデルを設定しています。学生のみなさんがどのような科目を履修すればよいか迷ったときには、これらの履修モデルを参考に履修計画を考えてみてください。

履修モデル1：「様々な地域の特性や文化に関する知識とグローバルな視点を持ち国際社会で活躍する人材」

将来の進路として、企業のグローバル部門・企画部門・営業部門、貿易業や総合商社、旅行代理業の企業等があげられます。履修モデル1では、領域科目のうち主に「グローバル文化領域」を履修していきます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次												
		1年		2年		3年		4年						
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期					
専門科目	基幹科目	文化人類学			2									
		社会思想史			2									
		国際社会と人権			2									
		多文化コミュニケーション			2									
		国際社会と日本文化			2									
		世界経済史			2									
		日本経済論			2									
		認知科学			2									
	ジェンダーと法				2									
	領域科目	多文化共生論				2								
		国際関係論				2								
		平和と紛争					2							
		アジア文化論					2							
		現代文化論					2							
		地域研究 A					2							
		国際協力論					2							
		環境政策					2							
		文化政策							2					
		生活文化論							2					
地域研究 B または地域研究 C								2						
メディアと社会							2							
発展科目	共創科目	グローバル・リサーチ B			2									
		国際共創プログラム					2							
	ローカルビジネス・スタディ					2								
	英語アドバンスト科目	Listening and Speaking B				2								
Peace and Coexistence								2						

履修モデル2：「国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学び国際社会に貢献する人材」

将来の進路として、NPO・NGO、外資系企業、企業のグローバル部門・企画部門・営業部門、国家公務員等があげられます。履修モデル2では、領域科目のうち主に「国際社会領域」を履修していきます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次								
		1年		2年		3年		4年		
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
専門科目	基幹科目	文化人類学			2					
		社会心理学			2					
		国際社会と人権			2					
		多文化コミュニケーション			2					
		世界経済史			2					
		アジア経済論			2					
		政治学			2					
		グローバル企業論			2					
	リーダーシップ論				2					
	領域科目	国際関係論				2				
		共生社会論					2			
		平和と紛争					2			
		国際開発論					2			
		国際協力論					2			
		環境と社会					2			
		社会ネットワーク論					2			
		文化政策					2			
		メディアと社会						2		
		国際社会と外交						2		
国際保健論							2			
国際社会と教育						2				
発展科目	共創科目	グローバル・リサーチ A			2					
		国際共創プログラム				2				
	ローカルビジネス・スタディ					2				
	英語アドバンスト科目	English Communication B Development and Management				2			2	

履修モデル3：「人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実現に向けた考え方をもち地域社会に貢献する人材」
 将来の進路として、NPO・NGO、国家公務員・地方公務員等があげられます。
 履修モデル3では、領域科目のうち主に「政策デザイン領域」を履修していきます。

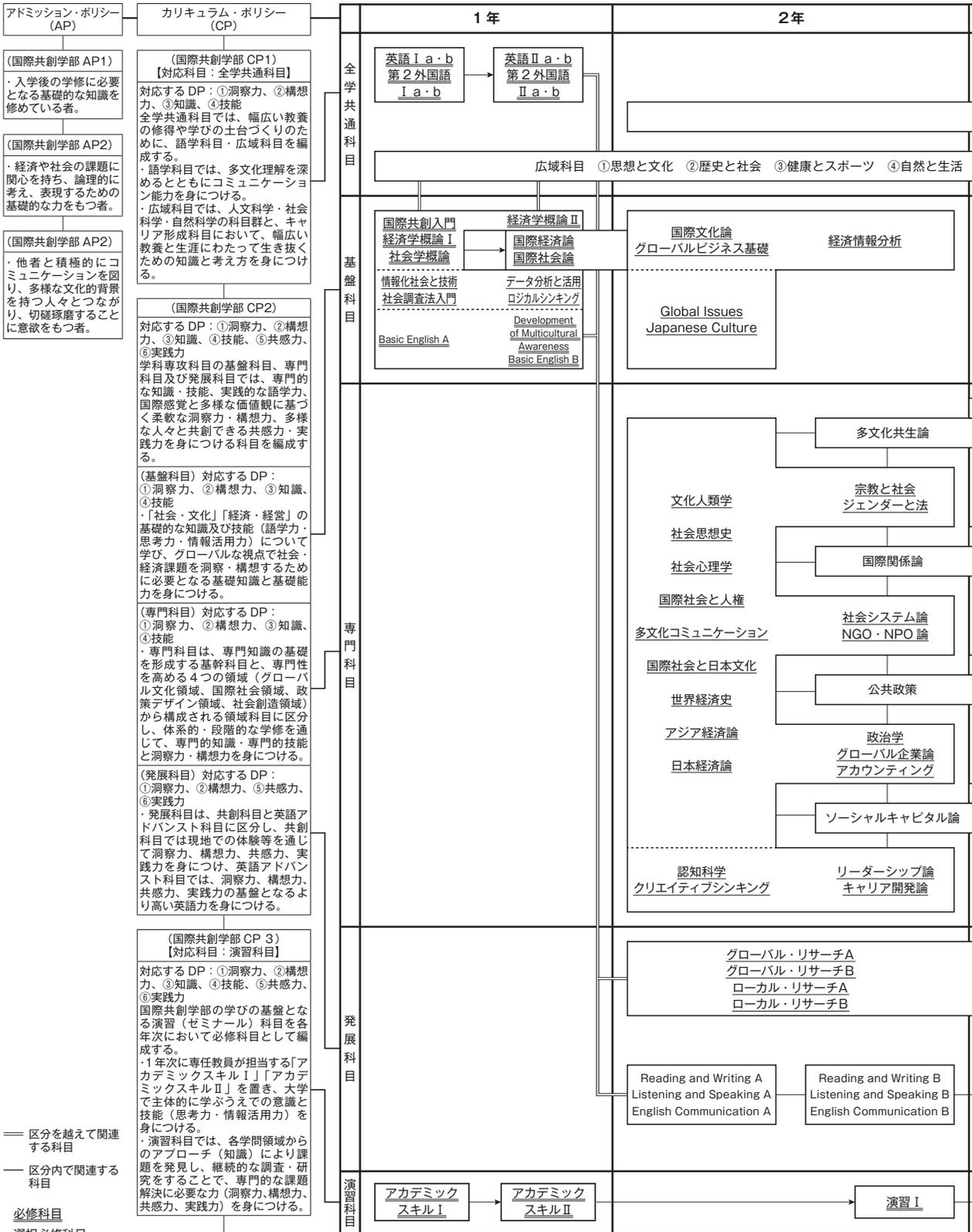
科目区分	授業科目の名称	配当年次								
		1年		2年		3年		4年		
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
専門科目	基幹科目	社会思想史			2					
		国際社会と人権			2					
		日本経済論			2					
		クリエイティブシンキング			2					
		社会システム論				2				
		ジェンダーと法				2				
		政治学				2				
		アカウンティング				2				
	領域科目	NGO・NPO論				2				
		公共政策				2				
		ソーシャルキャピタル論				2				
		環境政策					2			
		まちづくり論					2			
		地方創生論					2			
		パブリックマネジメント					2			
		都市デザイン論						2		
		環境デザイン論						2		
		アートマネジメント						2		
		中小企業政策						2		
発展科目	共創科目	ローカル・リサーチA			2					
		国際共創プログラム					2			
		ローカルビジネス・スタディ					2			
	英語アドバンスト科目	English Communication A			2					
		Regional Environment and Sustainability					2			

履修モデル4：「未来社会に向けた事業を創造するための知識と戦略的な手法を学び社会に貢献する人材」

将来の進路として、総合商社のグローバル部門、外資系企業、総合広告代理店等があげられます。履修モデル4では、領域科目のうち主に「社会創造領域」を履修していきます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次									
		1年		2年		3年		4年			
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
専門科目	基幹科目	社会心理学			2						
		世界経済史			2						
		アジア経済論			2						
		日本経済論			2						
		社会システム論				2					
		グローバル企業論				2					
		アカウンティング				2					
		NGO・NPO論				2					
	キャリア開発論				2						
	領域科目	ソーシャルキャピタル論				2					
		地方創生論					2				
		社会ネットワーク論					2				
		地域産業論					2				
		ツーリズム論					2				
		事業創造論					2				
		都市デザイン論						2			
		ボランティア論						2			
		地域イノベーション						2			
		情報産業論						2			
観光産業論							2				
社会的企業論						2					
発展科目	共創科目	ローカル・リサーチ B			2						
		国際共創プログラム				2					
	グローバルビジネス・スタディ					2					
	英語アドバンスト科目	Listening and Speaking B				2					
		Urban Geography						2			

国際共創学部カリキュラム概念図(3ポリシーと教育課程の関係図)



— 区分を越えて関連する科目

— 区分内で関連する科目

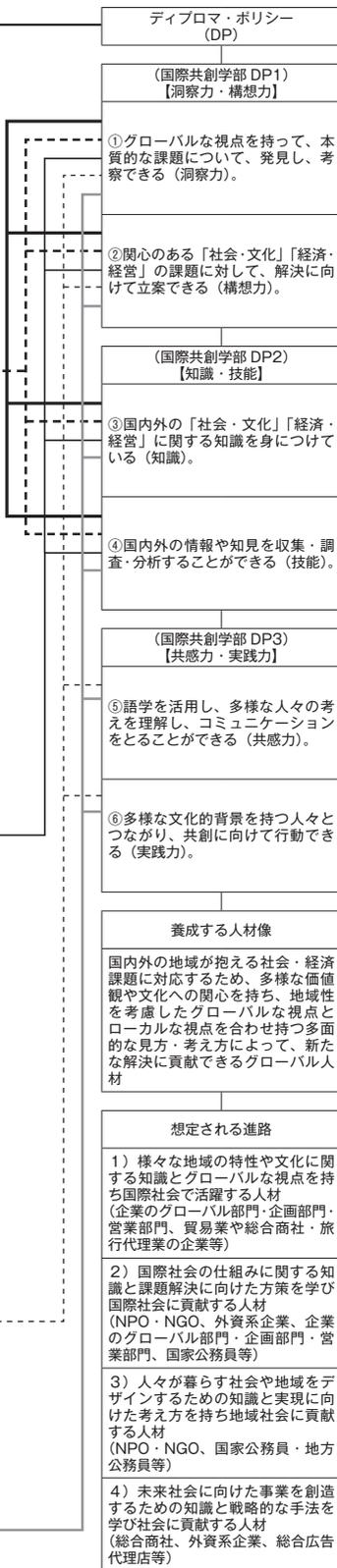
必修科目

選択必修科目

選択科目

これらの教育課程における各科目の学生の成績については、シラバスに記載する成績評価方法(「定期試験」「レポート」「発表」等)を用いて評価する。また、本学の「アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価(GPAや単位修得状況、カリキュラムマップ、外部アセスメントテスト等)をすることにより、なお、各授業科目の評価・検証については、担当者以外の教員によるシラバス相互チェックによって質の保証を担保する。くわえて、授業評価アンケートを学生に

3年	4年	
		30単位
選抜外国語科目		
⑤データサイエンスと数理 ⑥キャリア形成科目 ⑦共通特殊講義		
		26単位以上
グローバル文化領域：様々な地域や文化に関する知識と多面的な特性を学ぶ領域		
共生社会論 平和と紛争 アジア文化論 現代文化論 地域研究A	文化政策 生活文化論 地域研究B 地域研究C	
国際社会領域：国際社会の仕組みに関する知識と課題解決に向けた方策を学ぶ領域		
国際開発論 国際協力論 環境と社会	福祉社会論 メディアと社会 国際社会と外交 国際保健論 国際社会と教育	42単位以上
政策デザイン領域：人々が暮らす社会や地域をデザインするための知識と実現に向けた考え方を学ぶ領域		
環境政策 まちづくり論 地方創生論 パブリックマネジメント	都市デザイン論 環境デザイン論 アートマネジメント 中小企業政策 ローカルガバナンス論	
社会創造領域：未来社会に向けた事業を創造するための知識と実践的な手法を学ぶ領域		
社会ネットワーク論 地域産業論 ツーリズム論 事業創造論	ボランティア論 地域イノベーション 情報産業論 観光産業論 社会的企業論	
国際共創プログラム		
グローバルビジネス・スタディ ローカルビジネス・スタディ		
Advanced English (Discussion) Advanced English (Presentation) Advanced English (Debate)		8単位以上
Urban Geography Regional Environment and Sustainability		
Development and Management Peace and Coexistence		
英語学概論 英文法 英語文学A		
英語音声学 英語文学B		
演習Ⅱ	演習Ⅲ	14単位以上
	卒業研究Ⅰ	
	卒業研究Ⅱ	



、学生の学修成果を測定するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握し、改善につなげていく。
: に対し実施することで、教育課程の改善につなげていく。